

酪農宮崎

令和6年5月31日 印刷
令和6年6月 1日 発行

編集人:有馬 慎吾
発行所:宮崎市霧島1丁目1番地1
宮崎県経済農業協同組合連合会
電話(0985)31-2100
<http://www.kei.mz-ja.or.jp/>
印刷所:宮崎市大字赤江字飛江田931
宮崎紙工印刷株式会社
電話(代)78-2324

みやざき産牛乳をみんなで飲もう!!
毎月1日は牛乳の日!

NO.631
2024年6月



酪農公社 畜魂祭

6月号目次

酪農情勢報告	1	全酪連広告	10
ルーツを訪ねて!	2	全農広告	裏表紙
共済事業実績について	3~4		
搾乳ロボット導入経営の実態調査について	5~8		
農学部ナンノ教授のひとりごと	9		



MILK UP!
プロジェクト



経済連HP

酪農情勢報告

1. 生乳生産動向

令和6年5月15日現在

指定団体	4月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
北海道	332,521	101.0	332,521	101.0
東北	39,380	96.4	39,380	96.4
関東	90,674	101.5	90,674	101.5
北陸	5,845	96.1	5,845	96.1
東海	25,949	99.3	25,949	99.3
近畿	12,337	100.9	12,337	100.9
中国	25,641	101.9	25,641	101.9
四国	8,872	98.2	8,872	98.2
九州	49,350	99.9	49,350	99.9
(内、宮崎)	6,168	104.2	6,168	104.2
都府県	258,049	99.9	258,049	99.9
合計	590,570	100.5	590,570	100.5

2. 販売状況

令和6年5月15日現在

用途	区分	4月(トン)	前年比(%)	累計(トン)	前年比(%)
飲用牛乳	全国	235,895	96.7	235,895	96.7
	九州	31,760	95.4	31,760	95.4
はっ酵乳等	全国	35,234	97.0	35,234	97.0
	九州	7,204	101.4	7,204	101.4
特定乳製品	全国	174,403	108.0	174,403	108.0
	九州	7,830	126.0	7,830	126.0
生クリーム	全国	107,314	100.3	107,314	100.3
	九州	2,461	91.3	2,461	91.3
チーズ	全国	37,724	97.6	37,724	97.6
	九州	96	100.2	96	100.2
合計	全国	590,570	100.5	590,570	100.5
	九州	49,350	99.9	49,350	99.9

(小数点以下の四捨五入等で合計が一致しないことがあります)

3. 生乳出荷量別生産者戸数 4月

生乳出荷量	戸数
100 t 以上	7 戸
80 t 以上 ～ 100 t 未満	0 戸
60 t 以上 ～ 80 t 未満	10 戸
40 t 以上 ～ 60 t 未満	27 戸
20 t 以上 ～ 40 t 未満	65 戸
10 t 以上 ～ 20 t 未満	49 戸
10 t 未満	19 戸
合計	177 戸
最高出荷量	512t/月
平均出荷量	35t/月

4. トピックス

6月は「牛乳月間」～牛乳で元気に！～

山々の緑も、雨に打たれて色濃くなるこの季節、お健やかにお過ごしのことと存じます。6月1日を「World Milk Day (世界牛乳の日)」として、平成13年に国際連合食糧農業機関(FAO)が創設しました。日本では、日本酪農乳業協会(現Jミルク)が平成19年に6月1日を「牛乳の日」、6月を「牛乳月間」と定めました。宮崎では、平成21年より「毎月1日を牛乳の日」として、牛乳の機能的価値を再確認するとともに牛乳を日常にご愛飲いただくように定めました。これらを機に宮崎県酪農協議会や地域協議会、JAグループ、酪農関係者で酪農の理解を深める活動や牛乳・乳製品の消費拡大に取り組んでいます。今年もイオンモール宮崎で6月1日(土)・2日(日)に「みやざきミルクフェア2024」を開催し、県内外の消費者に対し、牛乳への関心・親しみを高めてもらい、酪農・乳業の仕事を広く知って頂くことを目的にイベントを実施しました。ステージイベントやミル子(模造牛)の搾乳体験、牛乳・乳製品の試飲・試食・販売、バターの手作り体験等を通じて、多くの子供たちや消費者に向けて牛乳・乳製品のPRや酪農の理解醸成ができました。また、宮崎県酪農青年女性連絡協議会で6月の第3日曜日の父の日にちなみ「父の日に牛乳(ちち)を贈ろうキャンペーン」を実施し、6月5日(水)に宮崎県の父、河野知事へ牛乳・乳製品を贈呈しました。改めて、命の恵みに感謝するとともに酪農家様の日々の生乳生産に対するご努力、ご尽力に感謝申し上げます。

牛乳が体に及ぼす影響について、再確認をしますと体の中では、たんぱく質に含まれるアミノ酸で筋肉がつくられます。牛乳のたんぱく質は、大豆や卵等のたんぱく質と比較して筋肉をつくるスイッチを入れる分岐鎖アミノ酸「BCAA(バリン・ロイシン・イソロイシン)」が多く、中でも重要なロイシンが豊富で運動後に牛乳を摂取すると筋肉をつくるスピードが上がるそうです。また、BCAAには、筋肉痛や疲労を和らげる効果もあります。更には、たんぱく質の他に牛乳で良く言われるのがカルシウムですが、骨や歯を強くするだけでなく、唾液や胃液等の分泌を促す、脳の指令をスムーズに伝える、筋肉を動かす、ホルモンの分泌を促す等の体にとって大切な働きもあります。

全国の飲用牛乳消費量は、国の統計調査によりますと令和4年で国民年間1人当たり28.2ℓ、宮崎県では、19.2ℓしか消費していません。10年前が24.0ℓなので、県民1人当たり4.8ℓも減少しております。牛乳は、「心」と「体」を健康にし、「元気の源」となります。元気が出ると「笑顔」が増えますので、自他ともに毎日、牛乳を飲んで幸せな日々を過ごしましょう。

—唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である—

酪農課 加藤 喜博

ルーツを訪ねて!「老牧夫回想録」より(高橋照次著)

ニュージーランド旅行間、ほんとによい人達に案内していたことは幸運でもあり、又そこにニュージーランド・デーリーボードの日本に対する関心の深さを感じさせるものがある。

八時三〇分、メルボルン行きのカンタス機に乗る。ステップに片足かけた瞬間、フッとニュージーランドの土を踏んでいるもう一方の足を上げるのが名残り惜しい気がした。

ジェフさんがロビーで手をふっている。やがて飛行機は爆音高くスピードを上げ、ロビーで帽子を降るジェフさんを後に残して、ニュージーランドの土を離れ、昨日来たクック連峯を遙か眼下に一路西へ飛ぶ。

海上に出た後も、雪の山々が別れを惜しむかのように、二〇分以上も見えている。一際高く朝日に映えているマウント・クックの白い山頂が次第に薄れて遂に視界を去った。緑と平和の国ニュージーランドと、そこに住む人々に栄えあれと祈り、ホットした気持で目をつむる。

(付録) オーストラリア

十月三十一日

午後二時、メルボルン着、バスでメルボルン観光しながら、オーストラリアの畜産事情をきく。

羊	約一六四、四〇〇千頭
牛	約 一八、二五〇 〃 (肉牛が主力)
豚	約 一、八一〇 〃
馬	四八〇 〃

オーストラリアの七〇%は降雨量よりも、蒸発の方が多いので、いわゆる不毛の地が全土の三分の一以上に達している。メルボルンの気温は夏季三八℃に達し冬季は零下十℃以下となり、雨量は二〇インチ内外でシドニーの二分の一量だという。したがって牧畜もシドニー方面が盛んだと、バスを運転しながらガイドさんが説明してくれた。

又ニュージーランドと異なり、時々大旱魃に襲われるが、一九〇二年の大旱魃では五、〇〇〇万頭の羊が死んだと云う。

オーストラリアの総人口約一、二〇〇万人。一九三七年に創設されたメルボルン市は現在の人口二三〇万、ニュージーランド同様失業者は殆んどなく、労働者の平均収入は週六七ドル(二六、八〇〇円)。バスは国営の勤労者アパート(週家賃十ドル)の高層ビルが立ちならぶ地区を通り抜け市街地に入る。現在は首都がメルボルンとシドニーの略々中間にあるキャンベラに移されたが、それまではこの国の首都であり、政治、経済の中心地として主要商社・銀行等の本店が市の中央部に集まっている。メルボルン・オリンピックの開会式の行なわれたクリケット競技場や、記念運動施設、移設された探検家クックの生家とケネディ記念館や美しい温室花園のある公園、一八六七年の最初の移住者の子孫が住んでいたと云うコモ・ハウス……現在国が買収して記念館……のある高級住宅街、南半球第一と云う壮大な競馬場、日本では想像も出来ないような大家畜市場等を廻った後ホテルに入る。

令和5年度 家畜共済事業実績(乳牛)

家畜共済による乳牛の補償は生後24か月以上の「搾乳牛」と生後24か月未満の「育成乳牛、子牛、胎子」に区分されます。

搾乳牛

令和5年度は宮崎県内で951頭の死亡・廃用(死廃)事故(前年対比81.9%)、11,869件の疾病・傷害(病傷)事故(同89.9%)が発生しました。この死廃事故に対して約1億9,684万円(1頭平均206,982円)、病傷事故に対して約1億2,562万円(1件平均10,584円)の共済金が支払われました。

～搾乳牛の事故発生状況～

【表1】に、搾乳牛の死亡・廃用事故のうち割合が多い病類・病名の集計をお示しします。大きくくりとして、運動器病、循環器病、周産期病による死廃事故がトップ3でした。運動器病では股関節脱臼が最も多く、腰痠(原因を特定できない起立不能症)と関節炎が続きました。循環器病はほとんどが心不全でした。周産期病ではダウナー症候群が最も多く、乳熱と産褥熱が続きました。

【図1】に、死廃事故の月別発生状況をお示しします。暑熱期である7月から9月に死廃事故件数が多くなる発生傾向は、ほぼ例年どおりです。今年度は例年厳寒期(12月から1月)にみられる死廃事故頭数の増加がみられませんでした。令和5年度では全体的に事故頭数が減少しました。

【表2】に、搾乳牛の病傷事故のうち割合が多い病類・病名の集計をお示しします。大きくくりとして、繁殖障害、泌乳器病、消化器病による病傷事故がトップ3でした。繁殖障害では鈍性発情、卵胞囊腫、黄体遺残が大部分を占めました。泌乳器病では、急性乳房炎が最も多く、血乳症と慢性乳房炎が続きました。消化器病では第一胃食滞が最も多く、ルーメンアシドーシスと腸炎が続きました。

【図2】に、病傷事故の月別発生状況をお示しします。令和4年度と比べて件数が減少しましたが、年間を通じて、繁殖障害、泌乳器病、消化器病の発生が見られました。

(6月、10月に件数が増加していますが、電子カルテシステム移行、保険の切替にともなう事務処理上の理由です。この時期に特に病気が増加する訳ではありません。)

育成乳牛・子牛・胎子

育成乳牛・子牛・胎子では、授精後240日以上の子牛から出生24ヶ月未満の育成乳牛の事故を補償することができます。

令和5年度は宮崎県内で190頭の死廃事故(前年対比65.1%)、658件の病傷事故(同66.2%)が発生し、それぞれ約1,564万円(1頭平均82,342円)、約763万円(1件平均11,590円)の共済金が支払われました。

～子牛と胎子の事故発生状況～

【表3】に、育成乳牛・子牛・胎子の死廃事故のうち、割合の多い病類・病名をお示しします。大きくくりとして、新生子異常、消化器病、循環器病がトップ3でした。新生子異常のほとんどは胎子死(いわゆる原因不明の死流産)で、母牛死亡に伴うものを含めて死廃事故の約90%を占めました。消化器病では、腸炎が最も多く、急性鼓脹症と第四胃潰瘍が続きました。循環器病ではすべてが心不全でした。

【図3】にお示した子牛の月別死廃事故発生状況は、令和3年度、令和4年度と比べて、令和5年度で低い推移(前年対比65.1%)となりました。全体的に減少傾向ですが、4月を除く10月から5月の事故頭数の減少が特に顕著でした。

【表4】にお示した病傷事故の主要病名では、大きくくりとして消化器病、呼吸器病、新生子異常がトップ3でした。消化器病では腸炎、呼吸器病では肺炎と気管支炎が大部分を占めました。新生子異常では、臍帯炎などの臍疾患の割合が高くなりました。

大切な牛を守るためには良い飼育管理が非常に重要ですが、万が一の事故に備えて経営安定を図るために、子牛・胎子共済を含めた保険加入をお勧めします。

(NOSAI宮崎 家畜課 桐木 謙輔)

【表1】乳用成牛 主要病名(死廃)

運動器病	216
股関節脱臼	(95)
関節炎	(42)
腰痠	(40)
循環器病	196
心不全	(196)
心内膜炎	(7)
心のう炎	(4)
周産期病	167
ダウンー症候群	(80)
乳熱	(33)
産褥熱	(13)
消化器病	144
泌乳器病	61
その他の病類	152
合計	951

【表2】乳用成牛 主要病名(病傷)

繁殖障害	5,984
鈍性発情	(3,056)
卵胞嚢腫	(1,015)
黄体遺残	(823)
泌乳器病	1,990
急性乳房炎	(1,471)
血乳症	(259)
慢性乳房炎	(173)
消化器病	1,239
第一胃食滞	(378)
ルーメンアシドーシス	(189)
腸炎	(143)
周産期病	899
運動器病	840
その他の病類	917
合計	11,869

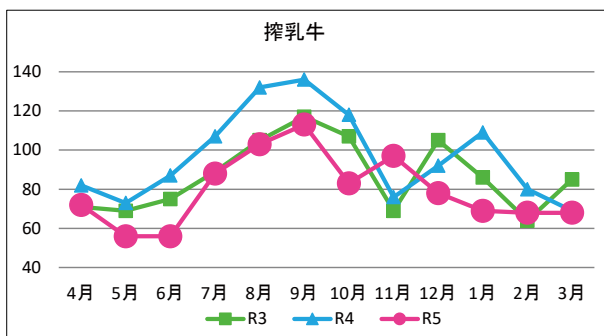
【表3】乳用子牛等 主要病名(死廃)

新生子異常	95
胎子死	(83)
胎子死(母牛死亡に伴う)	(6)
新生子呼吸障害	(2)
消化器病	32
腸炎	(21)
急性鼓脹症	(4)
第四胃潰瘍	(1)
循環器病	24
心不全	(24)
呼吸器病	8
運動器病	6
その他の病類	25
合計	190

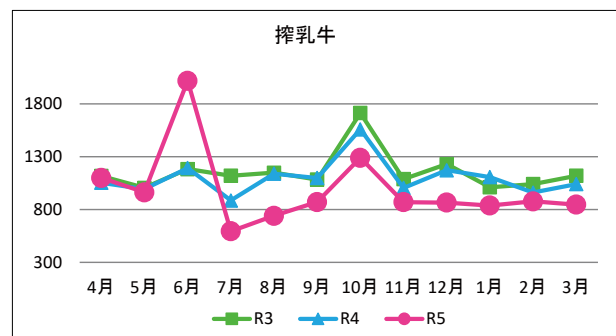
【表4】乳用子牛等 主要病名(病傷)

消化器病	341
腸炎	(318)
胃腸炎	(9)
急性鼓脹症	(5)
呼吸器病	248
肺炎	(157)
気管支炎	(83)
気管炎	(7)
新生子異常	23
臍帯炎	(9)
新生子呼吸障害	(4)
新生子体温調節障害	(4)
原虫・寄生虫病	9
運動器病	7
その他の病類	30
合計	658

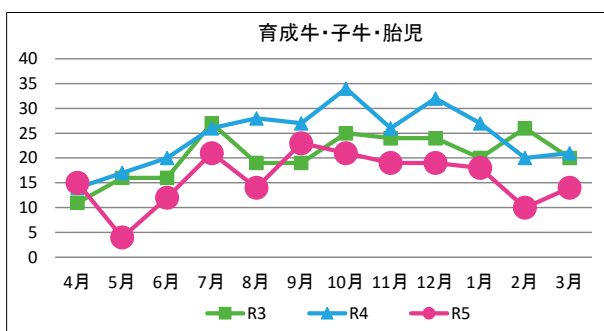
【図1】搾乳牛 月別発生状況(死廃)



【図2】搾乳牛 月別発生状況(病傷)



【図3】育成牛・子牛・胎児 月別発生状況(死廃)



宮崎県における 搾乳ロボット導入経営の実態調査

宮崎大学 山本直之・小林太一・槐島芳徳

1. はじめに

搾乳ロボットは、酪農経営において長時間労働や搾乳時間の固定性の改善、乳量の増加をもたらすものとして期待されています。また、生乳データの分析を通して、疾病の早期発見や繁殖成績の向上につながることも併せて期待されます。そのため、宮崎県においてもクラスター事業などを活用して搾乳ロボットの導入が進みつつあります。

他方、搾乳ロボットを導入した経営において、実際にこれらの効果が発揮されているのかどうかは、皆さん関心がおりだと思います。搾乳ロボットは、一般に多額の投資を必要としますし、その意味でも効果が発揮されるための課題は何か、検証が必要です。

そこで今回、搾乳ロボットを導入している宮崎県内の酪農経営を対象に、アンケート調査、及び聴き取り調査を実施させて頂きましたので、その結果を紹介いたします。アンケートは2023年に実施し、配布した10戸のうち7戸から回答を頂きました。調査にご協力頂きました経営者の皆様並びに関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。なお今回は、7戸のうち聴き取りを行った4戸を中心に紹介いたします。

2. 調査結果～搾乳ロボ導入経営4戸の特徴と課題～

(1) A経営

A経営は、経産牛が約60～70頭で、搾乳ロボット導入前より約20頭より増加しました。作業者の数は、導入前の3人から導入後は2人に減少しました。搾乳ロボットの導入理由は、頭数が増え以前の牛舎に入りきれなくなったことで、導入に併せて牛舎改築等も行いました。導入により乳量は1割程度向上するとともに、現在は作業者に合わせた作業体系を組むことができ、負担が軽減されたと感じておられます。

当経営の最大の特徴は、近隣のロール利用組合や経済連の預託育成制度を利用していることと思われます。費用面で負担はありますが、これにより、飼料生産と育成部門を外部化し、飼料作作業の負担軽減も実現しました。その他、餌寄せロボット、監視カメラ等IT機器を効果的に活用し、搾乳部門の省力化と相まってゆとりを持って牛の観察をすることが可能となりました。その結果、事故率、治療費ともに低く抑えています。また牛舎には、直下型扇風機があるほか、屋根に灌水を行うなどの暑熱対策により、できるだけ受胎率が低下しないように工夫されています。搾乳手段が他に無いので搾乳ロボットが故障しないようにとのプレッシャーは感じられているとのことですが、経営は順調といえます。搾乳ロボ不適合牛の割合も3%と低く、今後、引き続き搾乳ロボに適した牛をいかに効果的に導入できるかなどが課題といえるのではないのでしょうか。



A経営

(2)B経営

B経営は、経産牛約70頭であり、搾乳ロボット導入前より約20頭増加しました。作業員数は4人から3人に減少しました。搾乳ロボットの導入理由は、経営の転換期に省力化を図るとともに、データ管理をより細かく行おうと考えたからです。導入により乳量は1割程度向上するとともに、搾乳部門の省力化により特に経営主以外の作業員の負担軽減と、牛個体のデータ管理がし易くなったと感じておられます。当経営に限りませんが、配偶者や親など経営者以外の家族労働力の負担軽減も搾乳ロボットの大きな利点といえます。

暑熱対策としては、換気扇と牛へのミスト噴霧をはじめ、きめ細かな対応を心がけておられます。ただし、風の通り具合など牛舎環境の問題もあり、どうしても夏場の種付きが低下気味です。また、フリーストール牛舎における蹄病の発生にはかなり悩まれており、フットバスや削蹄等の工夫もされていますが、その分、事故率や治療費が若干高めになっているようです。今後、上述した牛舎環境と蹄病等への対応が課題となるでしょうが、ただし、言い換えればこれらの改善がなされれば、牛の耐用年数の向上と減価償却費の低減が見込まれるとともに、さらなる省力化や乳量向上の効果が発揮されることから、今後の対策が期待されます。



B経営

(3)C経営

C経営は、経産牛150頭であり、搾乳ロボットを2台導入されています。導入前と頭数の変化はありませんが、作業員数は7人から6人に減少しました。搾乳ロボットの導入理由は、既存のフリーストール牛舎を活かしてさらなる省力化等、新たな展開を図ろうとしたことです。導入により乳量は2割程度向上するとともに、発情発見率のアップにつながっていると感じておられます。またETにより約50頭の和子牛生産・販売も行っています。

当経営の最大の特徴は、既存牛舎の活用により牛舎改築等の費用が抑えられたことだといえるでしょう。償還金の負担も小さい分、研修生を含め労働力が十分確保できており、牛個体の観察などゆとりを持って行えています。そのため、余裕ある適切な飼養管理が行え、発情発見率の向上と空胎期間の短縮、乳房炎など病気の早期発見・早期治療につながっていると推察されます。暑熱対策は、直下型扇風機や重曹の給与等で対応されていますが、B経営と同様に、夏場の受胎率はどうしても低下するようです。また、やはり蹄病の発生は悩みの種ということですが、年2回の削蹄、フットバス、自分達で枠場に入れて治療するなど、工夫されています。今後、乳量と頭数とのバランスの見極め、絞りすぎて牛に影響が出ないように留意することなどが課題といえるでしょう。



C経営

(4)D経営

D経営は、経産牛150頭であり、搾乳ロボットを2台導入されています。導入前の60頭より大幅に増加しましたが、作業員数は導入前後ともに4人で変わりません。またETにより約60頭の和子牛生産・販売も行っています。搾乳ロボットの導入理由は、規模拡大による経営発展を図るためであり、導入に併せて牛舎改築や付帯施設整備、周辺整備なども行いました。導入により乳量は1割程度向上するとともに、搾乳部門の省力化、経営主以外の作業員の負担軽減等により大規模化を見事に実現され、経営発展にむけてさらに取り組まれています。

当経営の特徴は、費用を抑えることもあり頭数の割には外部雇用を抑え気味であること、また乳牛の更新はできるだけ長くして牛の減価償却費を抑えることにあると思われます。この意味もあって、大幅な増頭にも関わらず作業員数は変わらず、また、新たに併設したパーラーで搾乳不適合牛を搾乳できる体制を取っておられます。ただ、搾乳不適合牛が2割と多めのなか、特に経営主自身、飼養管理・観察の時間の確保にやや苦勞されている印象を受けました。なお、暑熱対策は直下型扇風機等に対応されていますが、B、C経営と同様に、やはり夏場の受胎率低下には直面されています。また、蹄病や事故等にも悩まされているようですが、最近ではフットバスや削蹄等により、かなり落ち着いてきたとのこと。今後、乳器など、搾乳に適合した牛をいかに確保するか、また、不適合牛にどのように対応するか、全体の労働配分や経営方針と関係することであり難しいところですが、課題といえるではないでしょうか。



D経営

3. おわりに～効果の有無と課題～

県内の4戸の事例を紹介しましたが、いずれの経営でも搾乳ロボット導入による乳量の増加や搾乳部門の省力化、ストレスの軽減といった効果を実感されています。また、回答を頂いた7戸を通した感想として、牛個体のデータ管理などにより乳房炎等、病気の早期発見・治療につながっていることが挙げられました。従って、各経営により導入のねらいはやや異なりますが、いずれも当初の目的を一定程度果たしているといえます。

ただ、搾乳部門は確かに省力化されますが、一方で、搾乳不適合牛や蹄病、怪我・事故等の対応に労働負担がかかり、また、仮にこれらの数値が悪化する状況になるようであれば、搾乳ロボットのメリットが小さくなる懸念もあります。その点、留意する必要があるでしょう。そして特に、暑熱対策や蹄病といった共通の課題も改めて確認されました。暑熱対策は、搾乳ロボットの導入に関わらずいずれの経営でもご苦勞され、本誌「酪農宮崎」の5月号での記事「暑熱対策をしましょう！」のように皆様が対応なさっているところでしょう。蹄病についてもフットバスや削蹄等に対応されていますが、具体的にどのような対策が最も効果があるか、ぜひ皆様のご経験をお聞かせ頂き、「酪農宮崎」等で情報共有して頂ければ幸いです。

ところで、搾乳ロボットを導入することの費用対効果について関心のある皆様もおられると思います。筆者が試算した例では、搾乳ロボットの導入に補助がない場合、仮に乳量5%向上、搾乳不適合牛5%、体調不良・疾病牛3~4%、繁殖障害牛3~4%のもとでは、搾乳ロボットのみで経済効果を上げるのは難しいですが、ET和子牛生産・販売と組み合わせることで搾乳ロボット導入前と比べて所得はプラスとなります。また、乳量10%向上、あるいは搾乳関連施設に1/3補助のある場合には、やはりET和子牛生産・販売と組み合わせることにより、搾乳ロボット導入前と比べて相当程度の所得増加が期待される結果となりました(詳しくは「デーリィマン」2021年1月号をご参照ください)。これらの数値が1つの目安になると思われますが、試算結果は、搾乳ロボット導入の際には、ロボット前後の飼養管理にもいかに適切に対応できるか、また搾乳部門で省力化された分をいかに有効に活用するかがカギになることを示しているのではないのでしょうか。

なお、以上のほかに今後対応すべきこととして、一般的な課題としての燃料費・資材費高騰への対応、飼料畑の確保、受精卵の安定的な確保のほか、施設の維持管理費への対応、分娩監視装置等IT関連機器の設置と搾乳不適合牛への対応も挙げられました。このうち、重要な要因である不適合牛の発生に関しては、例えば牛個体の監視カメラを設置し、疾病やストレスを抱える牛を見極めることにより牛群の改良、及び家畜福祉に寄与することが考えられます。この点については、私どもを含めて今後の研究開発が望まれるところであり、皆様のニーズをぜひお聞かせ頂ければ幸いです。調査にご協力頂きました皆様、最後までお読み頂きました皆様に改めてお礼を申し上げ、終わりとさせていただきます。

乳質事故防止のためのチェック事項

1. 抗生物質の混入はないか

○抗生物質使用後の休薬期間は守られていますか

2. 異物混入はないか

○血乳、洗剤・殺菌剤・水・ゴミの混入はないですか

○洗浄前のライン切替えは確認できていますか

3. バルクの乳温は $4 \pm 1^{\circ}\text{C}$ になっているか

○ガス漏れ、スイッチの入れ忘れはないですか

4. 搾乳機器の洗浄はされているか

○バルククーラー、パイプライン、ミルカー等の洗浄は確実に行われていますか

5. 搾乳機器の点検整備はされているか

○真空圧は適正範囲になっていますか

緊急連絡先 霧島集乳事業所 TEL 0984 25 6700

農学部 ナンノ教授のひとりごと

趣味？

趣味とは何だろう。広辞苑によると「仕事・職業としてではなく、個人が楽しみとしている事柄」と定義されている。芸術（音楽や絵画）、スポーツやゲーム（登山、将棋や競馬を含む）、教養（読書や映画鑑賞を含む）など、生活の糧として収入を得るためにやるもの（＝仕事）ではなく、純粋に自分自身を高めてくれるもの、他人に言われることなく自らの意思で継続できるもの、心踊るもの、魂が欲するもの、は全て趣味と言えるだろう。人生において趣味は必要なものか？と尋ねるのは愚問かもしれない。上記の定義からすれば、「仕事が趣味で、趣味は仕事である」との答えがナンセンスであることも理解できる。人生を豊かに過ごすために欠かせないものなのだろうし、少なくとも何らかの趣味を持っている方が良いような気がする。

現在勤務しているM大学で働き始めた12年前、研究室のホームページに自己紹介の項目として「趣味」とあったので、「はて？」と困った。すぐに思い浮かばなかったのである。自分では仕事一筋に生きてきたつもりはないが、かといって、仕事以外に没頭してきたものが何かあると言われると、特に何も無かったような気がしたのである。現在、ホームページの自己紹介には「旅行、コーヒー」と記載している。12年前はそれくらいしか書くことがなかった。もちろん、旅行もコーヒーも好きなこと（もの）には違いないが、どちらも仕事と共存しているという点が、どうも自分では気に食わない。オンとオフをはっきり分けるという意味では本当の趣味とは言えないのではないかと、自問自答している。出張は一種の旅行でもあり、コーヒーも毎日の仕事場に欠かせないものである。では何故、これらを“趣味”と言えるのかというと、少なくとも「楽しみとしている事柄」であることには違いない。知らない土地へのお出張は、好奇心旺盛な自分には楽しい。その土地の歴史や文化、風習、自然と出逢う喜びがある。また、いつも行っている出張先であっても、できるだけ行ったことがない店で昼食や夕食をとりたいと考えている。コーヒーも、違う

南野 快

豆に出会った時のワクワク感があるし、同じ豆であっても焙煎してからの日数や挽き方、淹れ方、天候や自分の体調や気分によって違う味がして、奥が深い。コーヒーだけではなく、ビールや日本酒、ワインやウイスキーにもこだわりがある。どの飲み物も私はコク、濃い、苦い、しかしほんのり甘い味、あたたかもそれ自身が私に語りかけてくるような感覚が好きである。

ここまで書いて気が付いた。会話をするのも自分にとっては楽しいのだと。出張の移動中に出会う人々、例えば国際線で隣の席に座った人や保安検査場の係官との何気ない会話での共感や笑いは旅する楽しさの一つである。ところで、海外では自分から話しかけることも多いが、話しかけられることも多い。今朝だけでも、メキシコからの帰路で、既に米国、ペルー、キルギス、アフガニスタンの老若男女、複数人からそれぞれ声を掛けられた。なぜかなあ・・・



写真：ジャカルタ（インドネシア）のカフェにて
6月1日は“世界牛乳の日”だが、コーヒーの日は10月1日らしい。ちなみにその間の8月1日は“カフェオレの日”と、国内の某有名企業が制定している。

全酪連 夏のキャンペーン

お問い合わせ

全酪連 南九州事務所 0986(62)0006

ハイ・パフォーマンスに

挑戦!

愛牛を大切にしたい、
その想いをささえます

ルーメンPHの調整に

ゼンラク重曹

20kg紙袋 単体飼料

デーリィMGソーダ

20kg紙袋ペレット

500円/袋 値引き

300円/袋 値引き

肝機能、繁殖成績に！

マル肝

700円/袋 値引き

メチビタ・Vプラス

500ml×10本/箱

10L/箱

320円/箱 値引き

1.650円/箱 値引き

暑熱時のミネラル補給に

アクアチャージ

2kg×5袋/箱

770円/箱 値引き

暑熱環境対策に

ナイアクールZ

5袋に1袋 添付
※分納可能

急速なビタミン給与に最適

ビプロソマテックAE1000

1箱 50g×5袋

すこやかプセル

150粒/300粒

300円/箱 値引き

150粒入り 1,000円値引き

300粒入り 2,000円値引き

キャンペーン期間 令和6年6月1日～9月30日



フレーク&ペレット

➤ 乳配M

- CP 17.0%・TDN 72.0%
- ハイキューブ、綿実を多く配合したミックスタイプ



➤ 乳スタンダード

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- ローコストでベーシックな搾乳牛用配合飼料



➤ 乳ブレンド18

- CP 18.0%・TDN 74.5%
- 綿実・ビートパルプを多く配合



マッシュタイプ

➤ デイリープレミアムM

- CP 17.0%・TDN 74.5%
- バイパス蛋白配合
- ビタミン・ミネラル強化



➤ パワーSマッシュ

- CP 17.0%・TDN 74.0%
- シンプルな内容で低コストを実現

